

IBARAKI

National University Corporation **IBARAKI University** | 茨城大学



茨城大学

自律的でレジリエントな
地域が基盤となる
持続可能な社会の実現を
めざして



学長 太田 寛行
(おおたひろゆき)

1954年東京生まれ。1982年、東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了(農学博士)。専門分野は土壌肥科学、微生物生態学。岡山大学歯学部助教授などを経て、1997年に茨城大学農学部助教授、2002年に茨城大学農学部教授、2010年に茨城大学農学部長・大学院農学研究科長、2014年に茨城大学副学長(大学戦略・IR)を歴任し、2016年4月より茨城大学理事・副学長(教育統括)を務めた。2020年4月より現職。

教育

多様な構成員から成るキャンパスにおいて、社会変化に柔軟に対応できる、学修者本位の学びにより成長を実感できる教育の追求

研究

研究力の強化と「知」の好循環の確立による持続可能な社会の構築への寄与

地域連携・グローバル化

地域と世界の結節点となり、市民と連携した活力ある地域社会の形成

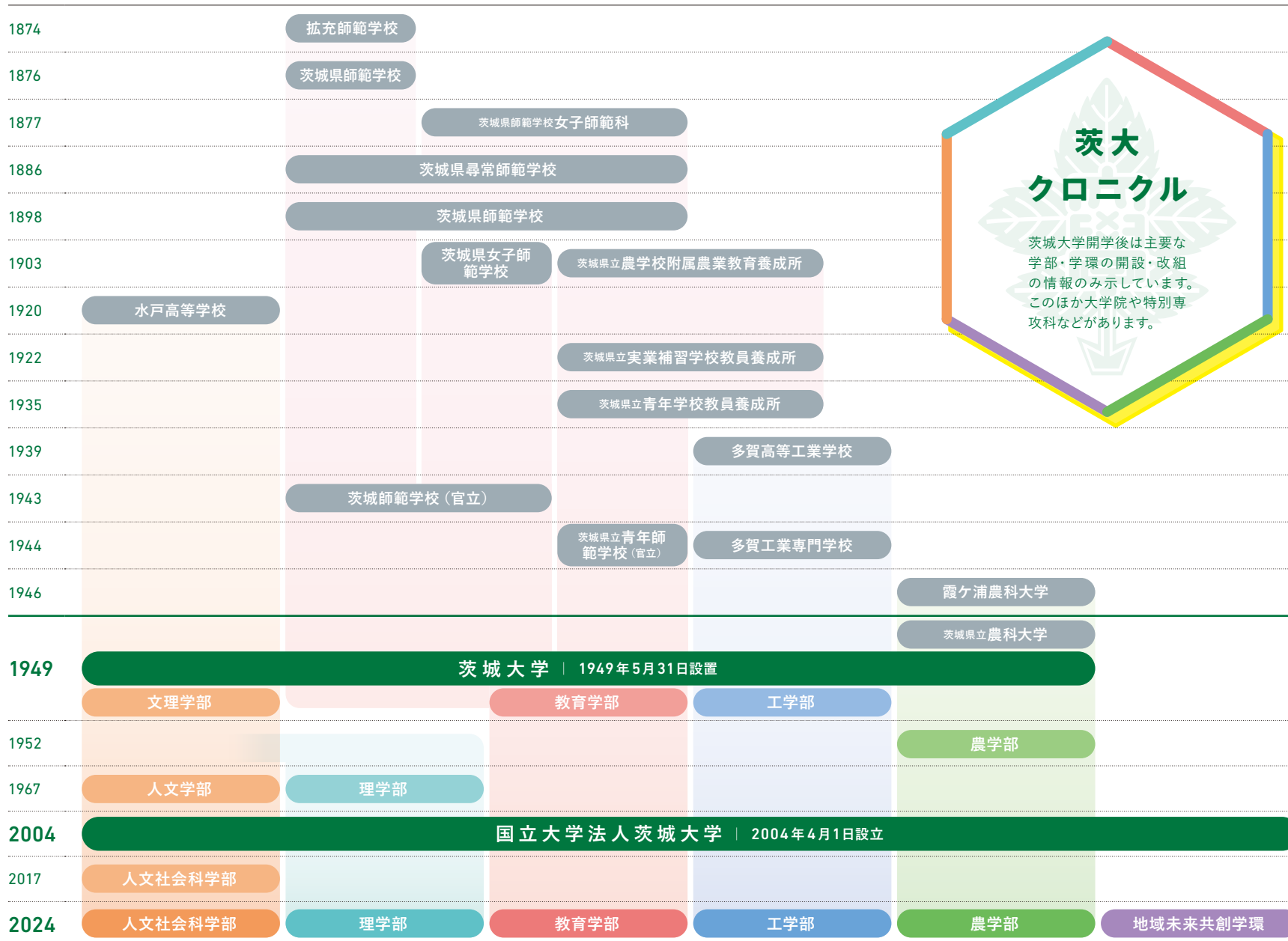
大学運営

強固で柔軟な経営基盤の確立、社会から信頼される大学運営、教職員の活躍・成長



イバダイ・ビジョン
2030







1



2



3

茨大の教育のまんなかには スチューデントサクセスがある。

茨城大学では、学生の学びや生活における充実感や達成感を示す「スチューデントサクセス (Student Success)」を重視し、学修者本位の教育・学生支援に取り組んでいます。

2024年4月にはその拠点として「スチューデントサクセスセンター (SSC)」を開設しました。「One-stop」(学生がひとつの相談窓口でその目的を達成できる)、「One-on-one」(学生一人ひとりの課題の解決にヒントを提供する)を目指し、水戸キャンパスの共通教育棟に窓口を設けるとともに、日立キャンパス・阿見キャンパスともリアルタイムでつながっています。

ひとりひとりの学生が、自分は何をしたいのか、何になりたいのかという考えを深め、その目標へと向かうための道筋と手応えを得られるよう、茨城大学では学内外での学びの機会を編成しています。

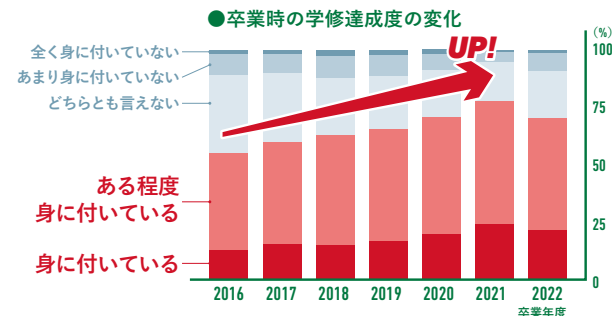
たとえば、サステナビリティ学、数理・データサイエンス・AI、アントレプレナーシップなど6つの教育プログラムを提供する「プラス1プログラム」は、学生たちがそれぞれの学部・学環での専門的な学びに加え

て、俯瞰的な知識や社会で活躍するための資質を身に付けられる機会を提供するものです。また、長期的な海外研修(写真■1)、インターンシップといった学内外の現場での主体的な学修を促す「iOP (internship Off-campus Program)」も、コミュニケーション力や課題解決能力を高めるのに役立つものです。

加えて、こうしたカリキュラムを通じて学生たちがどの程度学びを達成しているか、それを卒業後にどの程度活用できているかを、各種のアンケートや成績データなどをもとに把握し、それらのデータをもとにした侃々諤々の議論をベースに教育改善に取り組んでいます。教員個人、学科・コース、学部、全学という4段階での学びの達成度のレビューと改善の仕組みは、社会からの高い評価を得ています。

茨城大学は学生たちの「サクセス」の理解に努め、さらにその理解の上に、「あってほしい」未来の社会を学生たちとともに構想し、実践し、探究します。

茨城大学の教育のまんなかには、「スチューデントサクセス」があるのです。



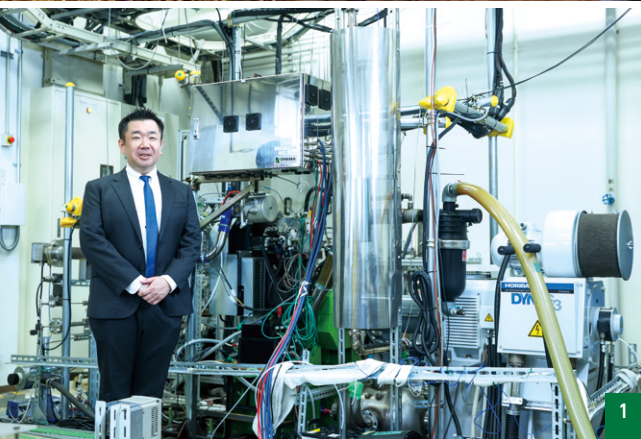
茨城大学の「教育の質保証」システム
学生の学びの達成度をレビューする茨城大学の「教育の質保証」システムは、学修者本位の教育マネジメントを実現する核となっている。その特徴をまとめた書籍を2023年春に発刊した。

2 フレッシュマン サクセスセレモニー

毎年入学式の後には、茨城大学がディプロマポリシー(学位授与要件)として掲げる5つの茨城大学型基盤学力について確認するセレモニーを実施。在学生が新入生に熱いメッセージを贈るのが恒例に。

3 大学運営への学生の参加

学生が茨城大学の成り立ちや現状を学ぶ授業科目の開設や、国際・学生支援・社会連携・広報などの分野における学生の活動の組織化により、学生の大学運営への参加を促進している。



サステナビリティ学の先駆者として 「総合気候変動科学」をつくる

茨城大学では、大学の創成期から環境科学の教育・研究に取り組んできました。2006年には、気候変動影響への「適応」を考える気候変動適応科学の研究拠点として地球変動適応科学研究機関（ICAS）を設置。学問分野を横断しながら持続可能な社会の実現を図る「サステナビリティ学」の研究を進めるとともに、独自の教育プログラムの構築など教育面での活動も進めてきました。

気候変動の影響が露見してきていた東南アジア・東アジアの地域でのフィールド調査と研究実装の活動がきっかけとなり、ベトナムの日越大学（VJU）では大学院の気候変動・開発プログラムの幹事校を担当。さらに国内においては、気候変動適応法に基づく地域気候変動適応センターを全国で初めて大学内に開設するなど、この分野の活動をリードしてきました。

ICASは2020年、広域水圏環境科学教育研究センターと統合され、地球・地域環境共創機構（GLEC）へと発展。さらに2023年4月には、二酸化炭素（CO₂）の回収、新たな燃料の合成、効率的な利用というカー

ボンリサイクルのプロセスを一気通貫して研究するカーボンリサイクルエネルギー研究センター（CRERC）を設置して、気候変動の「緩和」の組織的な研究もスタートしました。

加えて農学部／応用生物学野でも、土壌中の微生物の働きやバイオ炭を利用した温室効果ガスの抑制、CO₂からの有用物質生産などの研究を加速化。そして2024年4月には、原子科学研究教育センター（RECAS）も開設して、地域社会との丁寧なコミュニケーションをベースに、持続可能なエネルギー開発・利用の先端的な技術開発・研究を進める体制が整いました。

茨城大学では、気候変動の「適応策」の実績と「緩和策」に関する研究拠点の整備という強みをベースに、気候にレジリエントな開発（CRD）を追究する総合気候変動科学の牽引という新たなビジョンを打ち出しました。さっそくインドネシアなど海外の大学ともこのビジョンの共有を確認。世界的な「サステナビリティ学の拠点」の構築を力強く目指します。

1 脱炭素社会の新たなモデルを 日立で

カーボンリサイクルエネルギー研究センター（CRERC）では、CO₂の「回収」、燃料の「合成」、安全な「利用」というサイクルを、2028年までにキャンパス内で実装させることを目指す。その先には日立を脱炭素の先進地域にするというビジョンも。

2 アジアの各地域の大学と連携

気候変動の影響が顕著な東南アジア・南アジアの地域における長年の研究の実績を踏まえ、アジア地域を中心としたワールドワイドな研究・教育連携の体制を強化。総合気候変動科学の国際拠点形成を目指す。

3 環境フレンドリーなキャンパス

水戸市におけるシェアサイクル（みとチャリ）の普及に茨城大学の学生たちも尽力。水戸キャンパスのみとチャリのステーションの利用率の高さが際立っている。日常生活が気候変動の緩和・適応の対策につながるような環境整備を進めている。



人、まち、社会を地域とともに育てる 地方国立大学としての責任

茨城大学では、企業や自治体のほか、地域でさまざまな活動を展開している市民の方々との対話の機会を積極的に創出しています。会議やイベント、広報・アウトリーチ活動を通じて展開されるそれらのコミュニケーションをベースに、社会のニーズの把握に努め、真に地域に必要な人材育成やイノベーションの実現への責任を果たします。

茨城大学では、外部のステークホルダーが教育の点検に関わる「アドバイザリーボード」を、すべての学部等で設けています。さらに2024年4月に開設した地域未来共創学環では、ビジネスやデータサイエンスといった分野横断的なカリキュラムで学んだ学生たちが、茨城県内の企業・自治体において長期・有給の実習に取り組む「コーオプ実習」を全国で先駆けて必修化。その実習内容については同学環と企業・自治体とが協働で企画するなど、共創を一層深化させています。コーオプ教育は、大学院人文社会科学研究科のダイバーシティ地域共創教育プログラム(2025年度開設)でも導入を検討されるなど、取組みを拡充

しつつあります。

産学官連携によるイノベーション創出も、国立大学に期待されている役割です。茨城大学は、大学の研究シーズの社会実装を支えるプラットフォームに茨城県や県内の他大学とともに参加し、そのサポートのもと、東京都内にサテライトオフィスを設けて投資家とのコミュニケーションを加速させるなど、スタートアップ創出のための取組みを強化しています。2024年8月現在、6社の茨城大学発スタートアップが活動しており、これを2027年度前に8社程度まで増やすことが当面の目標です。

その他、教育学部では、茨城県教育委員会との協力により、2026年度入学選抜より地域教員希望枠を導入する予定です。このように、ステークホルダーと丁寧な対話を重ねながら、地域固有の事情やニーズの理解に努め、カリキュラムや入学選抜方法の改善、人材の還流や産業・雇用の創出につながるさまざまな仕組みの構築を真摯に進めています。それは地方国立大学としての責任です。

1 コーオプ教育

企業等での長期・有給の実習を採り入れた教育。地域未来共創学環では3年次に全員がコーオプ実習に取り組む。実習先として茨城県内の約50の企業・自治体と連携している。

2 スタートアップ創出

大学の研究・教育リソースを活用したスタートアップの創出に力を入れている。2024年に茨城大学発ベンチャーの称号を付与した(株)DEVELOPTONIAはAIを使ったビジネス情報の提供を通じて企業の海外進出を支援。多くの学生たちがインターンシップにも参加している。

3 多面的なアウトリーチ活動

地域の現場へ赴くアウトリーチ活動も国立大学にとって重要。たとえば日立市かみね動物園では、飼育員がもつ実践知と大学の知見をつなぎ、持続可能な動物園運営のための活動を展開している。

学部・学環

人文社会科学部

入学定員 360 名

現代社会学科 | 法律経済学科 | 人間文化学科

教育学部

入学定員 275 名

学校教育教員養成課程 | 養護教諭養成課程

理学部

入学定員 205 名

理学科

工学部

入学定員 505 名

機械システム工学科 | 電気電子システム工学科
物質科学工学科 | 情報工学科 | 都市システム工学科

農学部

入学定員 160 名

食生命科学科 | 地域総合農学科

地域未来共創学環

入学定員 40 名

特別専攻科

特別支援教育特別専攻科

知的障害教育専攻

大学院

人文社会科学研究科

修士課程 人文科学専攻 | 社会科学専攻

教育学研究科

専門職学位課程 教育実践高度化専攻

理工学研究科

博士前期課程

量子線科学専攻
理学専攻
機械システム工学専攻
電気電子システム工学専攻
情報工学専攻
都市システム工学専攻

博士後期課程

量子線科学専攻
複雑系システム科学専攻
社会インフラシステム科学専攻

農学研究科

修士課程 農学専攻

連合農学研究科

※東京農工大学・茨城大学・宇都宮大学が共同で運営している博士課程

博士課程

研究・教育センター

図書館

教学イノベーション機構

研究・産学官連携機構

情報戦略機構

全学共同利用施設

保健管理センター

アドミッションセンター

全学教職センター

スチューデントサクセスセンター (SSC)

グローバルエンゲージメントセンター (CGE)

研究設備共用センター

遺伝子実験施設

地球・地域環境共創機構 (GLEC)

原子科学研究教育センター (RECAS)

カーボンリサイクルエネルギー研究センター (CRERC)

五浦美術文化研究所

社会連携センター

学部附属施設

教育学部附属学校園

附属幼稚園 | 附属小学校 | 附属中学校 | 附属特別支援学校

理学部附属宇宙科学教育研究センター

農学部附属国際フィールド農学センター



キャンパスの位置と関連施設



五浦美術文化研究所



理学部附属宇宙科学
教育研究センター



日立キャンパス
日立市成沢町4-12-1



東海サテライトキャンパス |
原子科学研究教育センター
(RECAS)



水戸キャンパス
水戸市文京2-1-1



阿見キャンパス
稲敷郡阿見町中央3-21-1

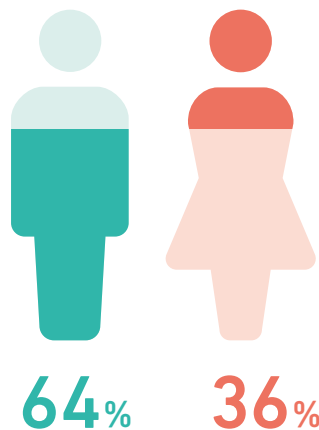


地球・地域環境共創機構
水圏環境フィールドステーション

学生数

8,145人

学部・大学院・特別専攻科の学生総数
(2024年5月1日現在)



NOTICE

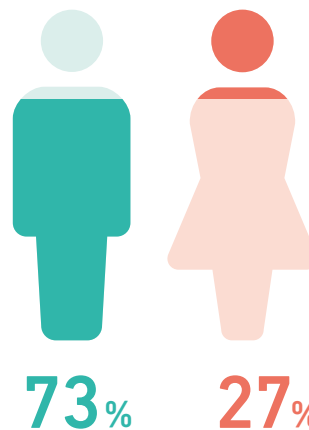
学部では人文社会科学部、教育学部、農学部、地域未来共創学環ではいずれも女性の学生の方が多いが、工学部の女性の学生の割合は13%となっている。茨城大学では、女性技術者の育成は地域の持続可能な未来のためにも重要と考え、工学部の入学者選抜における女性枠の導入や女子中高生に向けた理工系キャリアの関心啓発などの取り組みを進めている。

教職員数

教員 577人

職員 271人

(2024年5月1日現在)



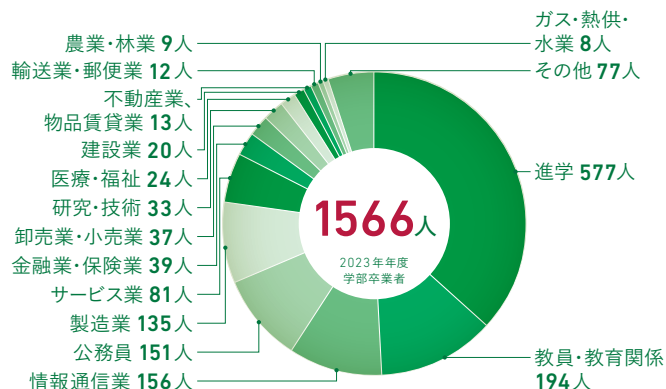
●教員1人あたりの学生数(ST)比



教員数には非常勤職員(授業時間数を踏まえている)を含む。



卒業後の進路



研究成果

●科学研究費
379件

471,543,000円
(2023年度)

●海外との共著論文
178件
(2023年度)

●地域のステークホルダーとの研究
100件

同一県内の企業・自治体等との共同研究・受託研究件数 (2023年度)

NOTICE

地方国立大学として茨城県内の企業・自治体との産学官連携の取組を重視している。東京都を除く関東地方の大学の同一県内の企業・自治体等との共同研究・受託研究の件数は、例年トップクラスを誇っている。

国際交流

ヨーロッパ **9** 大学・機関

- イギリス 3
- スペイン 1
- スロバキア 1
- ドイツ 2
- フランス 1
- ブルガリア 1

交流協定

24 国・地域
82 大学・機関

2024年9月1日現在

北アメリカ **10** 大学・機関

- アメリカ 8
- カナダ 2

アジア **57** 大学・機関

- インド 2
- インドネシア 11
- 韓国 4
- スリランカ 1
- タイ 9
- 台湾 4
- 中国 12
- バングラデシュ 1
- フィリピン 2
- ブルネイ 1
- ベトナム 8
- マレーシア 2

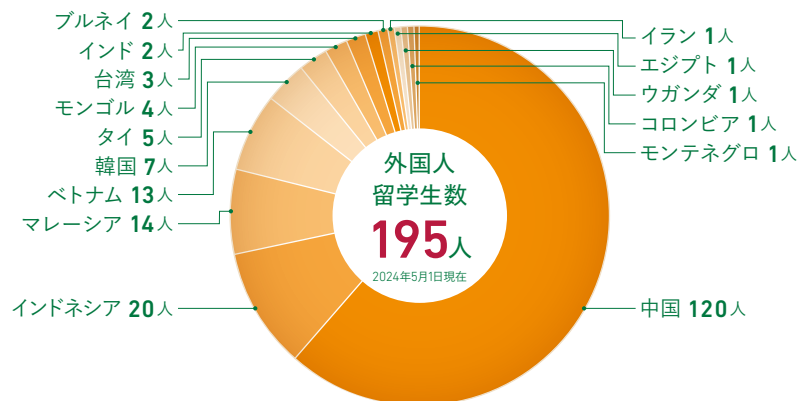
南アメリカ **2** 大学・機関

- コスタリカ 1
- ペルー 1

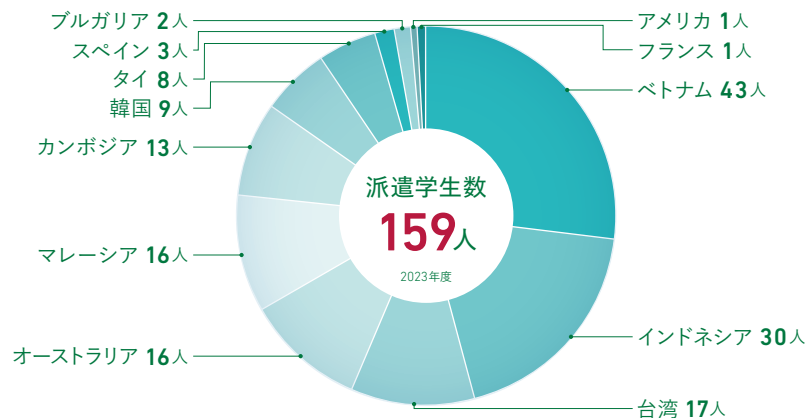
オセアニア **4** 大学・機関

- オーストラリア 3
- ニュージーランド 1

● 海外 → 茨城大学へ **15** 国・地域



● 茨城大学 → 海外へ **12** 国・地域



茨城大学の1年間



※入試日程など年度によって変更や中止となる場合があります。

